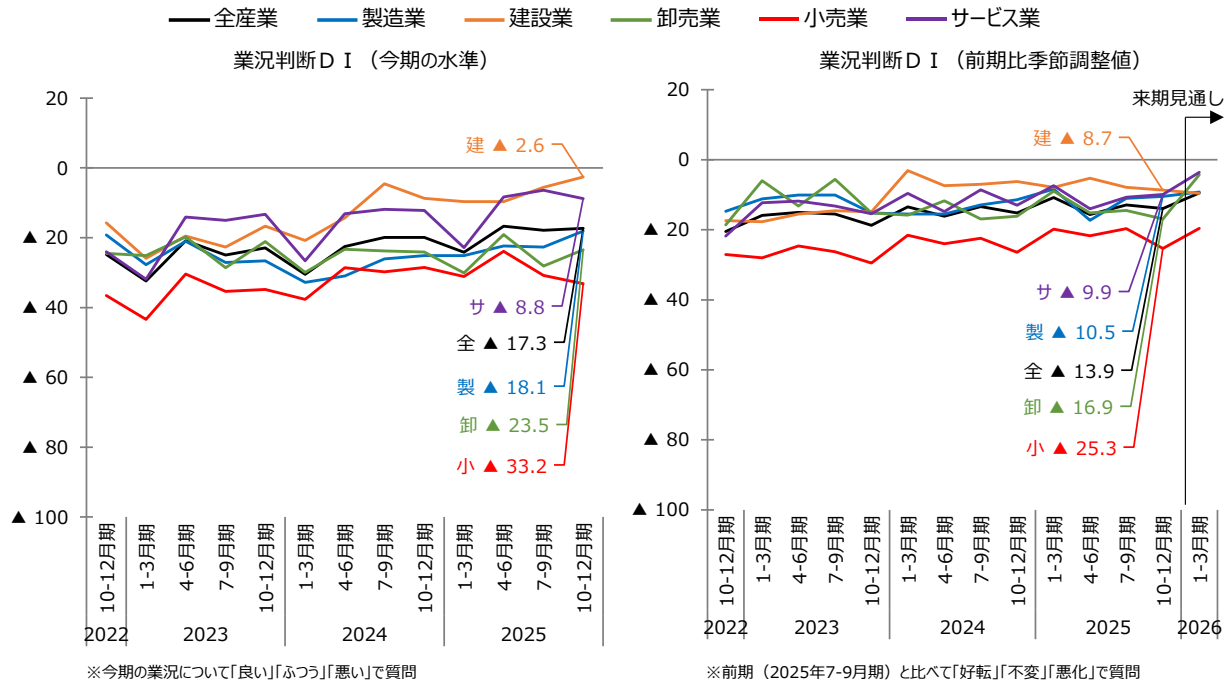


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中部



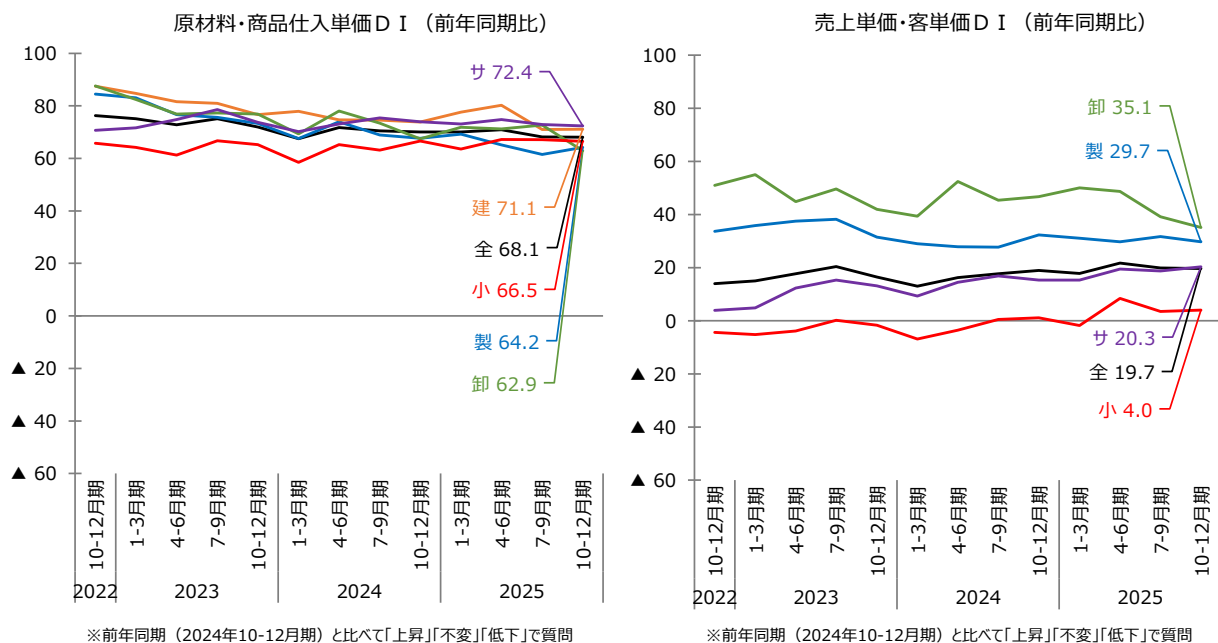
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より0.6ポイント増の▲17.3と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の68.1と2期連続してやや低下した。産業別にみると、製造業、建設業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の19.7と2期連続してやや低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、中部：2,259企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中部

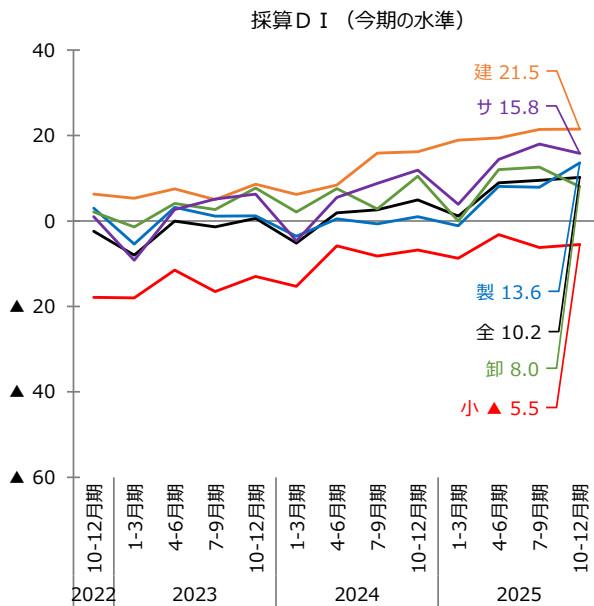


3. 採算

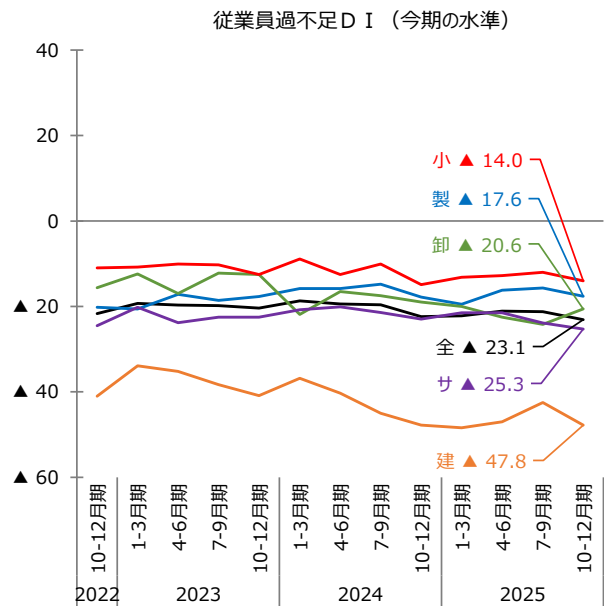
採算DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の10.2と3期連続してやや上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の▲23.1と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、小売業、製造業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	人件費を含め全てにわたる価格上昇が収益を圧迫している。サプライチェーンの工場間の製品価格は硬直化しており、インフレ志向の世情に困惑している。	製造業	プラスチック製造業
	今期は受注工事も増加し業況も回復傾向にあるが、人材不足もあり断わらざるを得ない依頼もある。元請としては短期間の効率的な工期も必要だと思うが、下請の負担が大きいと感じている。	建設業	鉄筋工事業
	引き合いは多いものの、卸量は減少傾向にある。新築物件の建築が少ないことが原因と考えられる。利益率も仕入れ高騰により、減少傾向にある。	卸売業	木材・竹材卸売業
	円安により、コーヒー豆など輸入品の仕入単価が上がり過ぎて経営を圧迫している	小売業	茶類小売業
	既存顧客の経費削減の影響で受注が減少しており、新規顧客の獲得も伸び悩んでいる。	サービス業	商業写真業
見通し	飲料や薬品に使われる充填機のノズルの注文が増えている。最も利益率の高い半導体製造装置部品の受注回復に期待したい。	製造業	他に分類されない生産用機械・同部品製造業
	現状は受注残も多少あり、今年の業績は順調であるが、来年以降の契約や引合い（見積依頼）の状況は低調。この状況を反映して、請負単価も低下気味となっており、来年以降の業況に懸念がある。	建設業	板金工事業
	年度末の仕事の引き合いが例年より少ないと感じている。	卸売業	他に分類されないその他の卸売業
	酒類・飲料メーカーへのサイバー攻撃の問題が解決されておらず、年末にどのような影響や問題が発生するか不透明。	小売業	酒小売業
	企業の出張での宿泊は減ってしまったが、インバウンドが入ってきて、稼働率は徐々に上がりつつある。しかし、先が全くわからない状態。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)